

SPF-FN6060-BC2

この度は、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
正しく据え付けていただくために、また製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき施工してください。

安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

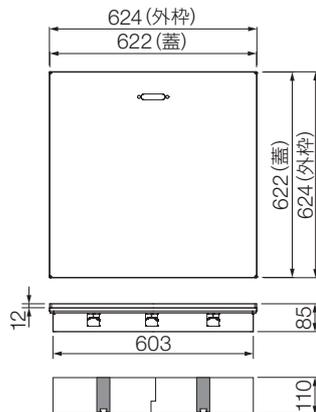
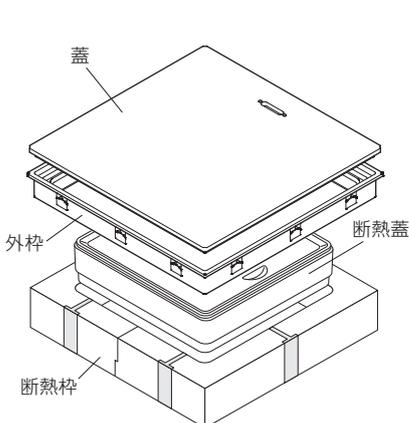
●表示内容と記号の意味は、次のようになっています。

⚠ 注意

⊘	この記号は、禁止の行為を示しています。
!	この記号は、必ず実行していただく「指示」内容を示しています。
⊘	樹脂製ですので、火気の使用や溶剤の使用に注意してください。
	樹脂製ですので、熱源(投光器など)のそばに置かないでください。
	保管は直射日光の当たる場所や高温・高湿になる場所を避けてください。変形・破損の原因となります。
!	仕上げには小口部分の保護が無くても問題の無い仕上げ材をご使用ください。
	柔軟性の無い仕上げ材は避けてください。蓋は100kg(980N/100kgf)の荷重に対し3mm弱のたわみが生じますので割れなどの恐れがあります。
	取手のネジの長さは仕上げ材の厚さ15mmを想定した長さになっています。
	ガタツキや段差が発生した場合には、微調整をおこなってください。
	仕上げ材の特性により、蓋部分の反り・ねじれなどの変形が生じる恐れがあります。
	仕上げ材の施工は、各仕上げ材メーカーの指示に従ってください。
	※木質系の床材を施工する際は、蓋部分には25mm程度の釘又はステーブルを使用し、打ち付け箇所は通常の1.5倍程度おこなってください。
	仕上げ材の特性による変形で段差や仕上げ材の割れ・欠けなどが発生する恐れがあります。上記要因による怪我の恐れがありますので、事前にお施主様へのご説明をおこなってください。
仕上げ材の特性による変形で蓋の開閉ができなくなる恐れがあります。これらを配慮した仕上げを実施してください。	
EX) 乾燥時期のムクフローリング施工の際は、目地幅を大きく取ってください。	
また、開閉ができなくなった場合には都度、隙間の調整をおこなってください。	
収納庫は、収納物の重量によって変形する恐れがありますので、ブロック・レンガ・モルタル(間にビニールシートを入れる)などで収納庫の底部を受けるか、別売品の床下収納庫用補強ステーのご使用をおすすめします。また、2階に収納庫をご使用の場合は、床下収納庫用補強ステーをご使用いただくか、別途安全面を考慮した構造としてください。	

製品図

下地合板：24mm + 仕上げ材：15mm を想定した製品です。



付属品

- スライドコア (12個)
- スライドコア用木ネジ $\phi 4.5 \times 50$ mm (12本)
- 外枠高さ調整用ネジ $\phi 3 \times 16$ mm (4本)
- キャップ (12個)
- 回転取手
- 断熱枠取付ネジ $\phi 3.8 \times 57$ mm (6本)
- 取手 (1個)
- 取付ネジ M4 \times 30 mm (2本)
- スペーサー (2個)

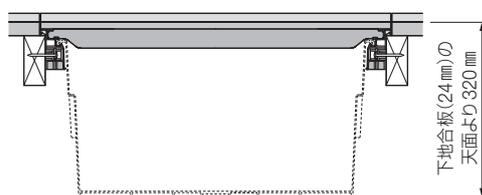
施工説明書 の見方

この施工説明書はフチなし高気密型床下点検口「FUCHINE:高断熱型」、および「収納庫」を掲載しています。下記事項を基に施工寸法に誤りがないようご注意ください。
※補強材と外枠の取り合いが気密ラインになりますので、補強材同士の取り合いや、補強材と合板の取り合いの気密処理に注意してください。

1 施工の前に

- ・高気密住宅の場合は、防湿・気密層が切れないようにしてください。
- ・収納庫を使用する場合は、下地合板(24mm)の天面から土間まで以下の高さが必要です。
 - 収納庫薄型タイプ(SPF-60S1)使用時は190mm以上必要
 - 収納庫浅型タイプ(SPF-60S2)使用時は320mm以上必要
 - 収納庫深型タイプ(SPF-60S3)使用時は480mm以上必要

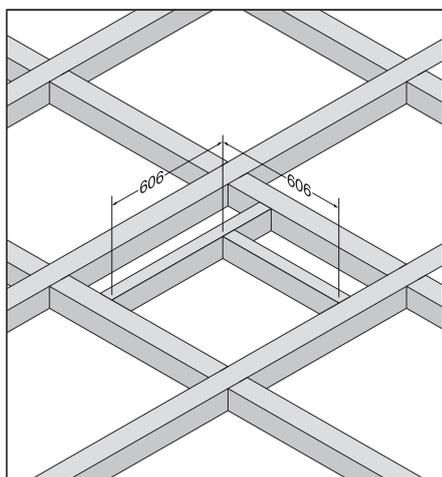
※浅型タイプ納まり図 ※フロア面からではないので注意



2 下地作り (補強材と下地合板の開口)

1 下地の確認

600×600タイプは**606×606mm**の開口部が必要です。



※補強材によっては気密性能に影響を及ぼす可能性があるため「2.3気密処理」の内容をご確認のうえ、取り付けをおこなってください。

2 下地作り・下地合板の開口

幅38mm以上、高さ89mm以上の補強材で四方に下地を組みます。

※補強材には乾燥材をご使用ください。

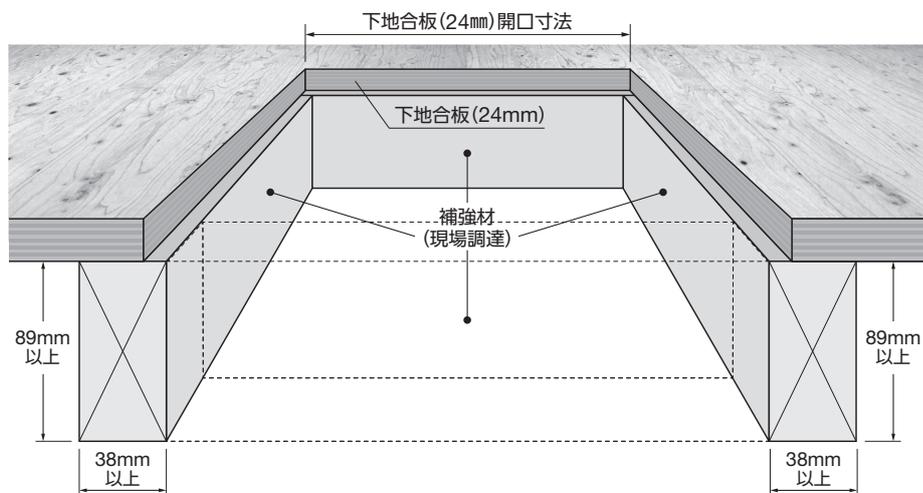
※床の開口部が荷重に耐えられるよう、下地組みは十分強度が確保できるように施工してください。

下地合板(24mm)の開口寸法

- ・目地幅:3mmの場合・・・628×628mm
- ・目地幅:4mmの場合・・・630×630mm
- ・目地幅:5mmの場合・・・632×632mm

仕上げる床材の特長に合わせて目地幅を設定し、下地合板(24mm)の開口寸法を決定してください。

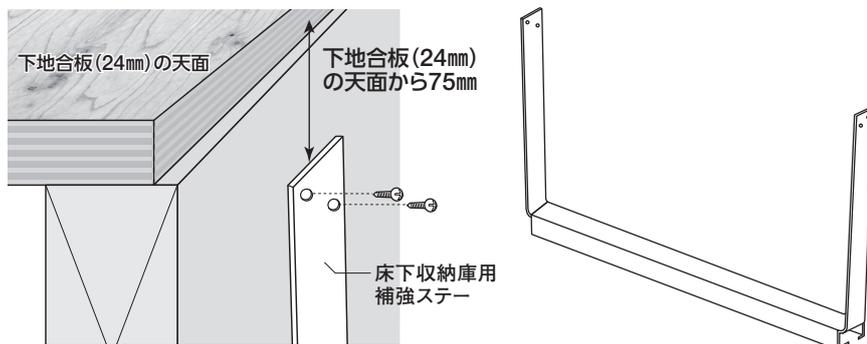
※下地合板24mmの開口に対し補強材の開口が芯振りになるようにしてください。



■床下収納庫用補強ステーを別売でご用意しています。

床下収納庫用補強ステーをご使用の場合は**2.2**完了後、ステーの上端が下地合板(24mm)の天面から75mmの位置になるように付属のネジ(φ4×16)で補強材(現場調達)に取り付けてください。

※2階に収納庫をご使用の場合は、床下収納庫用補強ステー(別売)をご使用いただくか、別途安全面を考慮した構造とってください。



対応収納庫	品番
SPF-60S1	BU-SPF-HS60S1-SV
SPF-60S2	BU-SPF-HS60S2-SV
SPF-60S3	BU-SPF-HS60S3-SV

収納庫の注意点

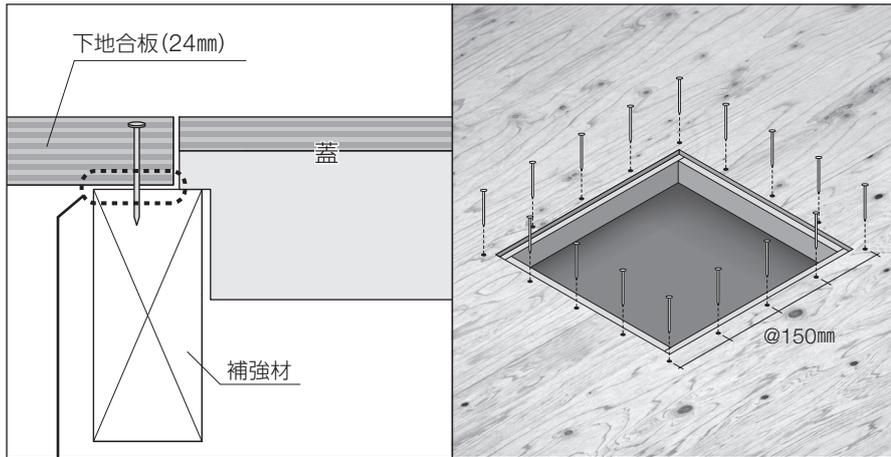


下表の重さ以上ものを入れないでください。また、一点に集中して荷重がかかると変形の恐れがあります。

SPF-60S1	SPF-60S2	SPF-60S3
70kgまで		

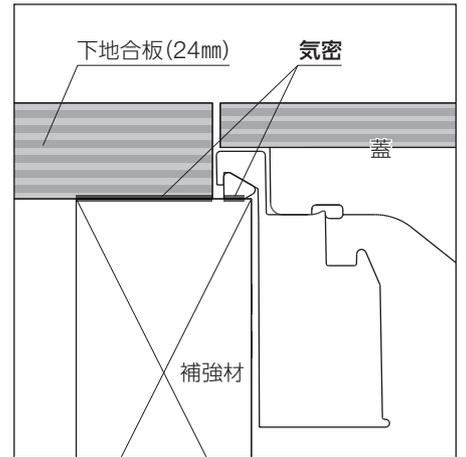
3 気密処理

補強材との取り合い部の気密が必要となります。
気密性を確保するために以下の点に注意してください。



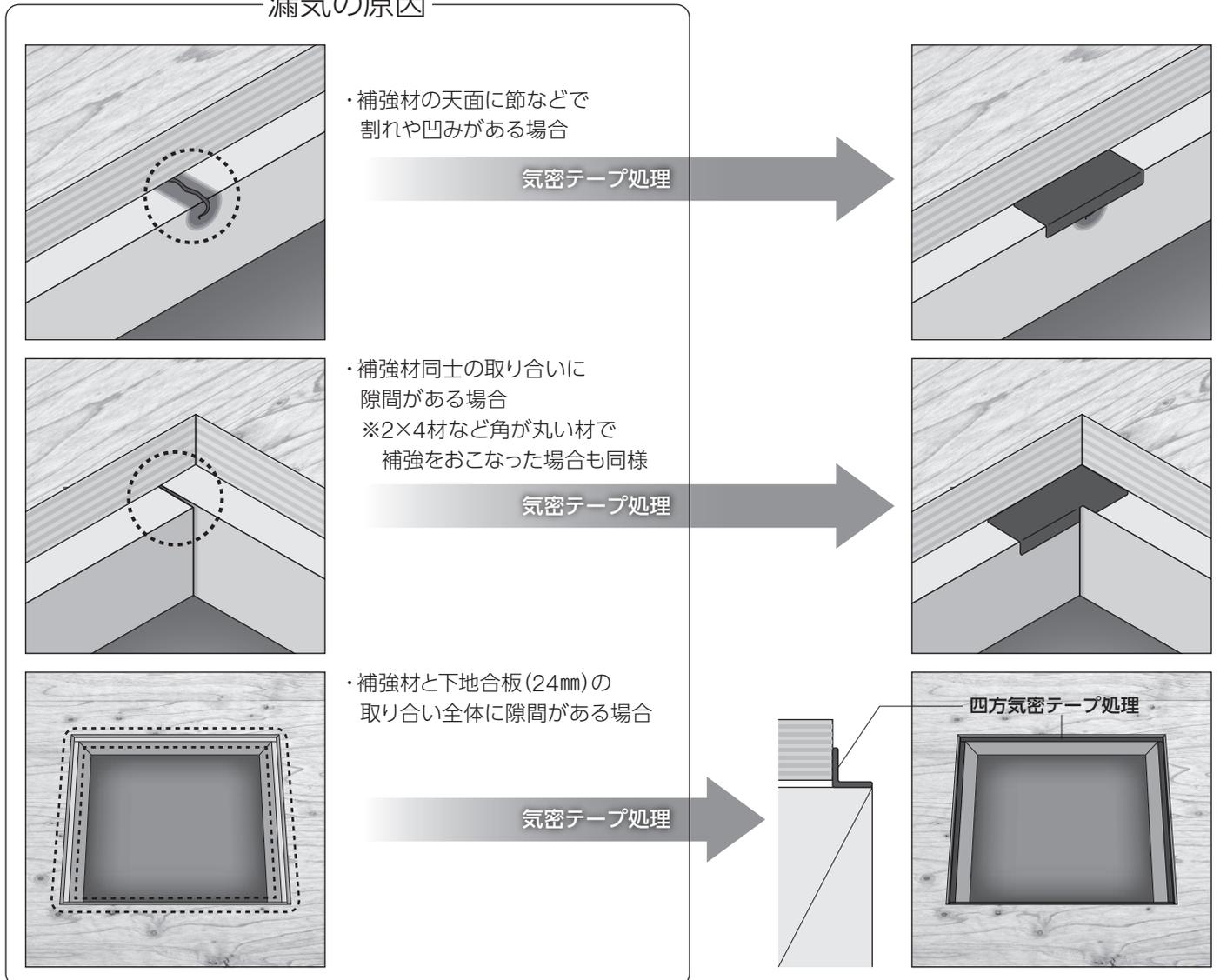
下地合板24mmと補強材の間に隙間が生じないように、
釘又は木ネジにて留め付けをおこなってください。
(@150mm程度を推奨)

●気密のポイント



※そのほか図のような場合には漏気懸念があるため、事前に気密テープなどで処理をおこなってください。
[気密テープは付属しませんので現場にてご準備ください]

漏気の原因

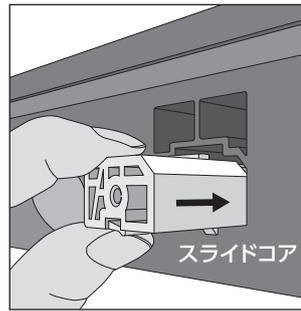
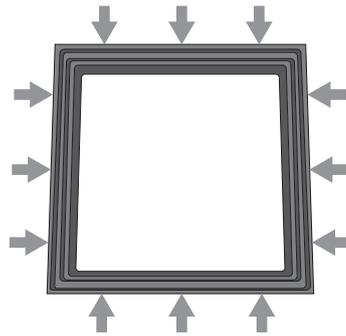


3 点検口の据え付け

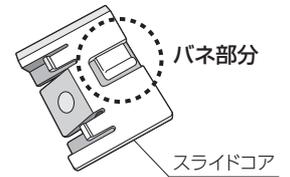
1 スライドコアの取り付け

外枠の外側からスライドコアを差し込んでください。

※この製品にはスライドコア部分のネジ留めによる枠を押し下げる機能はありません。



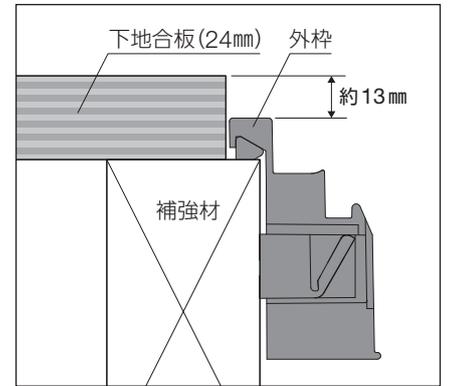
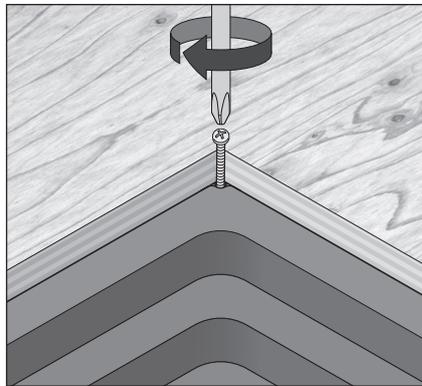
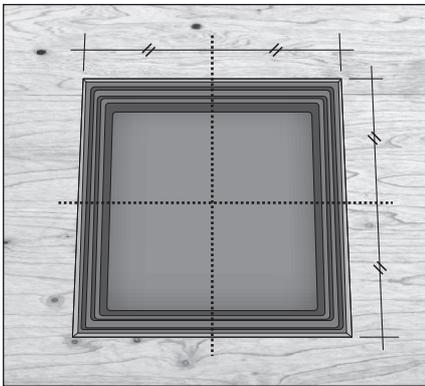
※外枠の内側から差し込む際は、図のバネ部分を押しながら差し込んでください。



2 枠の仮固定

外枠を開口部に入れ、付属ネジ(φ3×16mm)を天面の四隅にある孔に打ち込み、下地合板(24mm)天面と外枠の天面の段差が約13mmになるように仮固定をします。

その際、下地合板(24mm)の開口に対し、芯振りになるように枠を設置してください。



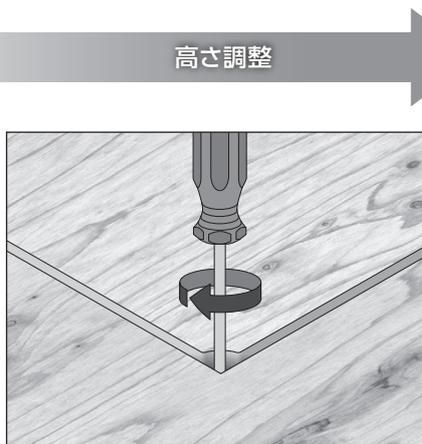
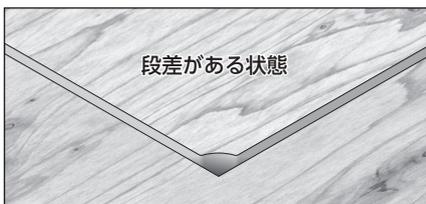
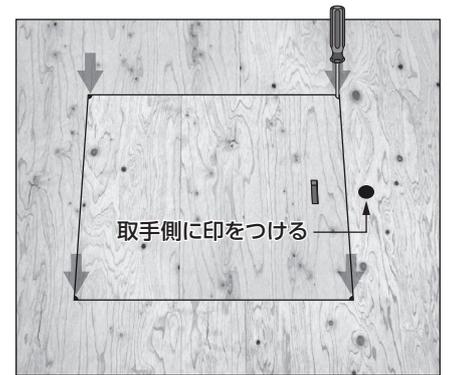
3 蓋の下地合板の高さ調整

仮固定の外枠に蓋をし、開口廻りの下地合板(24mm)と蓋の下地合板天面に段差が無くなるよう「32」の付属ネジを締めて高さの調整をおこなってください。調整後、蓋の向きが変わらないように取手側に印をつけてください。

※高さ調整の際は、蓋の下地合板部分に荷重がかからない状態でおこなってください。荷重がかかると正確に調整できません。

※下地合板(24mm)以外の厚さの場合は「22下地作り」の時点で24mmの段差となるよう予め調整をしてください。下地合板(24mm)の天面と蓋の下地合板の天面が平らにならないと、仕上がり面が平らになりません。

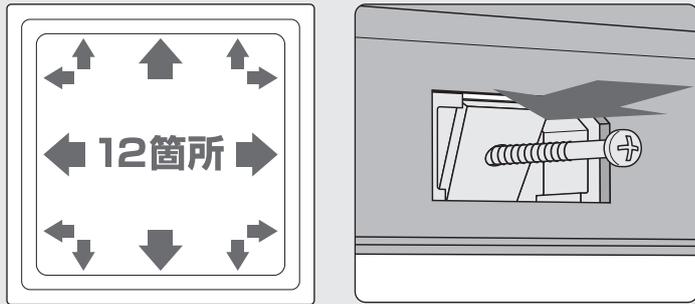
※下地合板(24mm)、蓋の下地合板ともに、わずかに反りがあることがあります。その場合、最も凸になっている箇所にレベルを合わせて、蓋の下地合板が少し低くなるよう調整することをお勧めします。



4 スライドコア部分のネジ留め

- ①蓋を外し、下の図に沿ってスライドコアを付属ネジ(φ4.5×50mm)で留め付けます。
※スライドコア留め付けの際に外枠に手を掛けしないでください。荷重が掛かると段差の原因となります。
- ②固定後は蓋をし、段差やガタツキが無いことを再度確認してください。
- ※この時点で段差やガタツキがあった場合には、スライドコアと四隅のネジをすべて外し、点検口を90度回転させた後に“3・2・3”の方法で再度調整をおこなってください。
- ③段差やガタツキが無いことを確認できた後、再度蓋を外しスライドコア部分に付属のキャップを取り付けます。

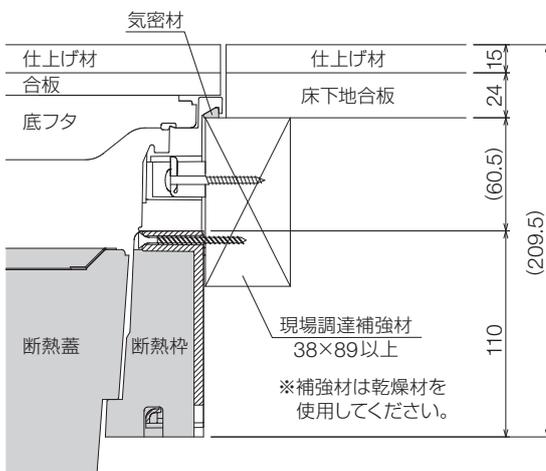
スライドコアは、中央部分から留め付けてください。
全てのスライドコアがしっかりと留め付けられていることを確認してください。



※この製品にはスライドコア部分のネジ留めによる枠を押し下げる機能はありません。

4 断熱枠の取り付け

●参考納まり図(施工例)



⚠注意

右図の気密材は本製品では不要のため付属しません。

■気密材 (BU-SPF-R-KM)

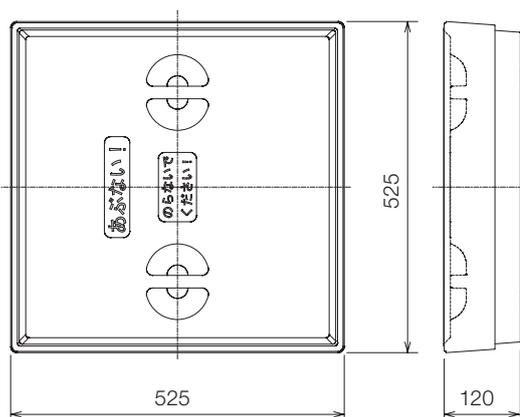


⚠注意

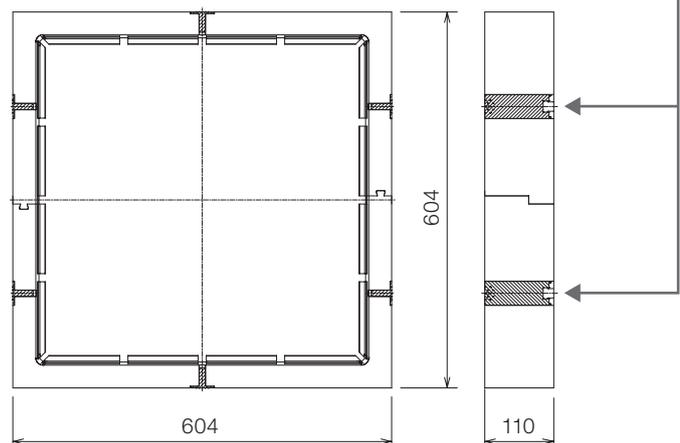
断熱枠支持ブラケットは断熱枠に取り付いた状態で納品されますが、開梱時に万一断熱枠支持ブラケットが断熱枠から外れている場合は、図のように適切な位置に戻してから施工してください。

下をはめてから矢印の方向にはめ込みます。

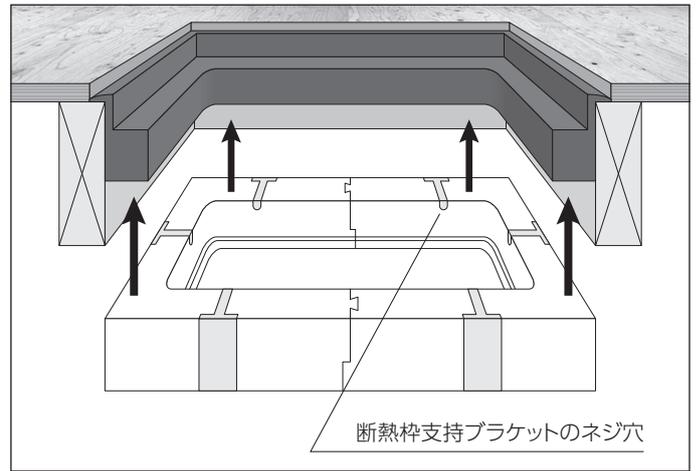
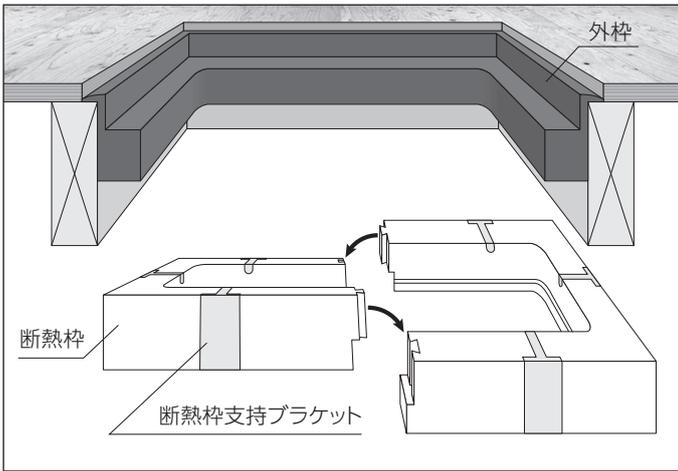
●断熱蓋図



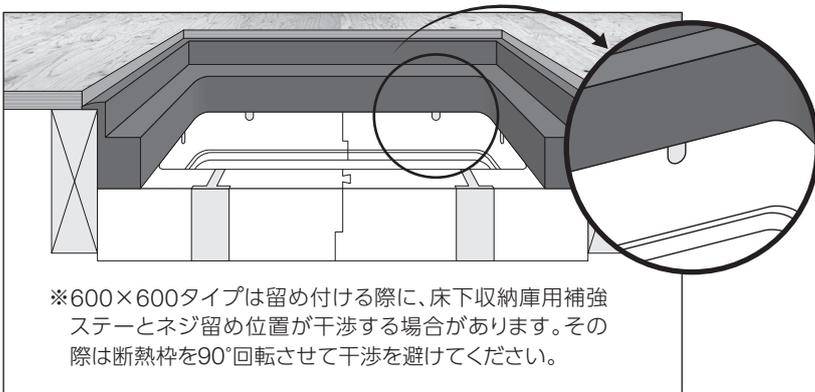
●断熱枠セット図



- 1** 断熱枠をばらした状態で外枠から床下に入れ、断熱枠支持ブラケットのネジ穴がある方を上にして床下で組んでから、外枠の下端まで持ち上げます。



- 2** 断熱枠支持ブラケットのネジ穴から、付属の取付ネジで補強材に留め付けます。



注意

点検時に断熱枠を取り外す場合

断熱枠支持ブラケットの取付ネジを外して断熱枠を押し下げて外してください。また、その際に断熱枠が破損しないようご注意ください。元に戻す場合は4-1~2と同じ手順となりますが、その際は電動ドライバーは使用せず、手回しでネジを留め付けてください。

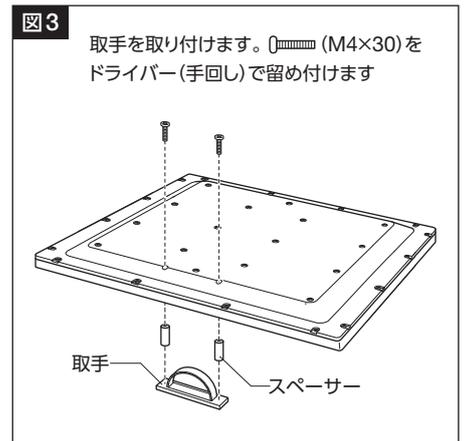
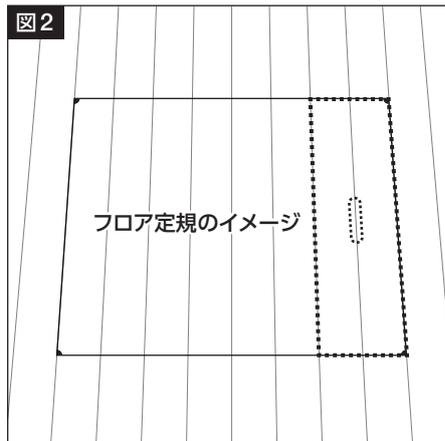
5 蓋部分の仕上げ

1 仕上げ材の施工 (図1)

蓋の下地合板に合わせて仕上げ材を加工してください。
 ※木質系の床材を施行する際は、蓋部分には25mm程度の釘又はステープルを使用し、打ち付け箇所は通常の1.5倍程度おこなってください。
 ※その他の床材については、各床材の施工説明書に沿って施工をおこなってください。

2 取手の取り付け (図2・3)

取手部分の加工は同梱しているフロア材切断定規を型板として使ってください。
 また、床材固定前に取手の仮付けをおこない加工に問題ないかを確認してください。
 ※取手部のネジの長さは仕上げ材の厚さ(15mm)を想定した長さになっています。



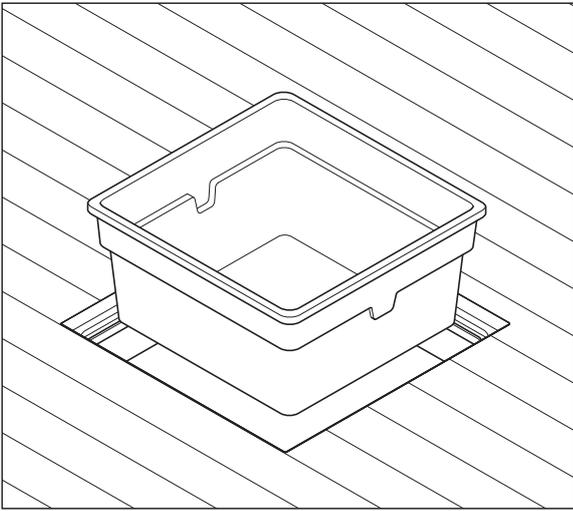


指示に従う

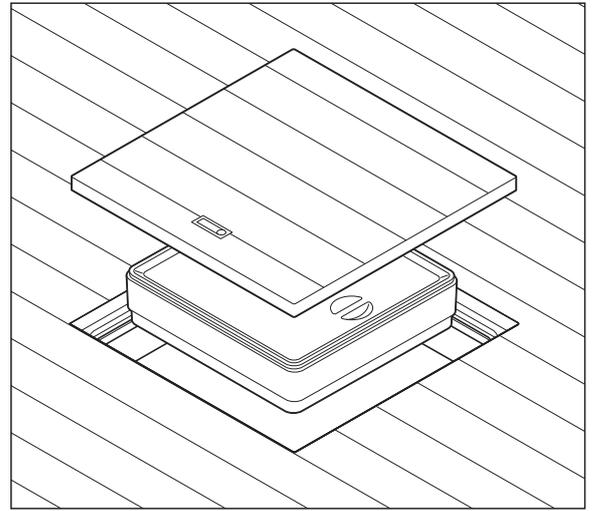
- 仕上げには小口部分の保護が無くても問題の無い仕上げ材をご使用ください。
- 柔軟性の無い仕上げ材は避けてください。
蓋は 100kg (980N/100kgf) の荷重に対し 3mm 弱のたわみが生じます。
- ガタツキや段差が発生した場合には、微調整をおこなってください。
仕上げ材の特性により、蓋部分の反り・ねじれなどの変形が生じる恐れがあります。
- 仕上げ材の施工は、各仕上げ材メーカーの指示に従ってください。
※木質系の床材を施工する際は、蓋部分には 25mm 程度の釘又はステープルを使用し、
打ち付け箇所は通常の 1.5 倍程度おこなってください。
- 仕上げ材の特性による変形で段差や仕上げ材の割れ・欠けなどが発生する恐れがあります。
上記要因による怪我の恐れがありますので、事前にお施主様へのご説明をおこなってください。
- 仕上げ材の特性による変形で蓋の開閉ができなくなる恐れがあります。
これらを配慮した仕上げを実施してください。
EX) 乾燥時期のムクフローリング施工の際は、目地幅を大きく取ってください。
また、開閉ができなくなった場合には都度、隙間の調整をおこなってください。

6 蓋を取り付けます

1 収納庫を取り付ける場合は、外枠へセットしてください。



2 蓋を外枠へセットし、開閉に支障がないか、ガタツキがないかを確認してください。





城東テクノ株式会社

ユニークな建材で長持ち住まいをささえます。

本製品に関するお問い合わせは



ダイヤル【J】0120-106011

受付時間(土・日・祝を除く) 9:00~12:00/13:00~16:00

城東テクノホームページ

Joto

<https://www.joto.com>



Information

※Joto製品は、PL法に基づく製品保証体制を取っております。

※製品の仕様は予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。